

## 第2回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

開催日時 平成30年6月8日(金)19時~21時

会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール

テーマ: 次期学習指導要領とESD

次期学習指導要領に即した各教科・総合等でのESDの授業

ESD学習指導案の様式について

参加者: 大西・圓山・池見・阿彌・乾(飛鳥小)、山方・樋口・三木(都跡小)、河野(附属小)  
中澤哲(平群北小)、島(郡山西小)、木下(済美小)、豊田(郡山南小)、西口(市教委)  
後藤田(成蹊大)、中澤敦(きんき環境館)、青山(京エコロジー)、檜原(ESD学会)  
糸・藤本・丸本・板口・西田・片山・西條(奈良教育大学・学生)  
北村・中澤(奈良教育大学) 計27名

### 【今年度の学生と教員のマッチング】

大西ー西田、圓山ー糸、池見ー藤井、阿彌ー坂本、三木ー板口、河野ー丸本  
中澤哲ー藤本、島ー山田、中澤敦ー青山、新宮ー片山

### 1. 次期学習指導要領について

#### (1) これまでの学習指導要領との違い

- ・ 予定調和の世界で生きる子どもの育成が先行き不透明な世界で生きる子どもの育成に変化  
グローバル化・AI化・人口爆発(食料問題)と人口減少(労働力不足)・温暖化 など
- ・ 社会に適応できる力の育成というよりは、社会の創り手の育成 適応→創造

#### (2) 子どもにつけたい3つの学力(資質・能力)

##### ①各教科で育成する教科固有の学力

##### ②すべての教科の基盤となる学力

言語力・ICT活用力・問題解決力等

##### ③地球的課題に対応する力

温暖化・資源の枯渇・生物多様性の劣化・防災・減災

貧困・飢餓・格差・文化的寛容・差別・不平等・ジェンダー・戦争・テロ・紛争・生産と消費

#### (3) 学力(資質・能力)を構成する3つの柱

##### ①知識・技能 事実的知識(断片的知識)

what, where, when, who, which

##### ②思考力・判断力・表現力 概念的知識(構造化された知識)

why

事実的知識を比較したり、総合したり、因果関係でつないだりすることで、説明できる知識に。

##### ③学びに向かう力・人間性 価値的・判断的知識(深い学び)

how

自分に問い直し、生き方や考え方に迫る

#### (4) 見方・考え方の育成について

見方・考え方とは視点と同じ。教材や社会事象に対する構え・アンテナ

子どもは、白紙の状態では教室にいるのではなく、生活経験を通して、様々な見方・考え方を身につけている。

子どもは既存の見方・考え方を使って、課題を発見する。

子どもは既存の見方・考え方を使って、仮説を立てる

(学習前にできる範囲での知識の構造化を行って)。

学習によって、見方・考え方が洗練化される。(汎用性のある見方・考え方の獲得) →類推・転用

## 2. 各教科学習と ESD

各教科学習を通して、各教科特有の見方・考え方を身につける。

各教科学習を通して、各教科特有の資質・能力を身につける。

教科横断的な学習(総合・生活)を通して、汎用性のある見方・考え方、資質・能力を身につける。

社会を教材化した学習(社会に開かれた教育課程・ESD)を通して、より洗練化され、汎用性のある、見方・考え方、資質・能力の育成を図る。

→ 各教科と同様、ESDの見方・考え方、資質能力を育成する。

## 3. ESD に関して

### (1) ESD で育てたい見方・考え方 (ESD の視点)

	多種多様な要素からなる視点	互いに作用し合う視点	ある方向へ変化している視点
自然環境・社会環境 (実態概念)	「多様性」	「相互性」	「有限性・循環性」
人・集団の意思や行動 (規範概念)	「公平性」	「連携性」	「責任性」

国立教育政策研究所より改変

多様性：色々ある方がいい

相互性：つながっている、つながりを尊重する

有限性・循環性：有限なものである。それが循環していればいい。

公平性：世代内と世代間の公平を考えていることが重要。

連携性：排他的でなく、異なるもの(異文化を背景とする人々)とも妥協点を見出し、協働する。

責任性：最後までする。リーダーシップを発揮する。協力する。

### (2) ESD で育てたい資質・能力

①クリティカルシンキング(批判的思考力、代替案の思考力)

②システムズシンキング(総合的に、背後のシステムをとらえる)

③長期的思考力(データに基づき、見通しをもつ力)

④コミュニケーション力(異質な集団でも意見を述べる、聞く、妥協する)

⑤協働的問題解決力

(3) ESD で育てたい価値観（見方・考え方の背景となる生き方の基準）

- ①世代内の公正と世代間の公正
- ②生物多様性などの自然環境の保全を尊重する
- ③互いの人権・文化を尊重する

※ESDは行動の変革を求める学びである。人は知識として理解していても、行動できないことがよくある。行動化の背景となるものは価値観であろう。見方・考え方や資質・能力より、もっと人の根幹にかかわるものが価値観

(4) ESD の学び方（主体的対話的で深い学び・アクティブ・ラーニング・問題解決学習）

- ①身近な課題の発見・教師による提示
- ②既存の見方・考え方をを用いた仮説の作成
- ③調査活動
- ④調査結果に基づく話し合い
- ⑤留保条件付きの解決 → 自分の生き方やライフスタイルへの問い直し
- ⑥行動化

この反復によって ESD で育てたい資質・能力が身につく、見方・考え方が洗練化され、それが子どもの中に価値観としてゆっくりとしみこんでいく（内化）。

(5) ESD の条件

持続可能な社会の担い手づくりを通して、持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する教育  
→ 構想する授業実践が、SDGs の何に貢献することになるのかを考える必要がある。

3. ESD 学習指導案（各教科・総合・生活）の様式

- ①単元名
- ②単元の目標（3観点で 知・技、思・判・表、主学）
- ③単元の評価規準（3観点で）
- ④単元について
  - ・教材観：学習の中心
  - ・児童観：学習に入る前の、学習内容（単元）に関する児童の実態（アンケート結果など）
  - ・指導観：指導上の工夫、配慮すること。評価方法など。
- ⑤ESD との関連（箇条書きではなく、なぜそれが可能かの理由を記す）
  - ・学習を通して主に養いたい ESD の視点
  - ・学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力
  - ・育てたい ESD の価値観
  - ・SDGs のどれに貢献できるのか
- ⑥学習活動の概要  
全○時間

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考

⑦本時について

- ・目標（1つ）
- ・評価基準（1つ）
- ・本時の展開

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考

4. ESD 実践事例の作成（マスター・スペシャリスト）

- ・ESD 学習指導案と形式は同じ
- ・本時は不要
- ・考察に重点を置く

次のことについて「たまねぎ」形式で2つか3つの切り口で考察を作成

考察内容は、他の教材開発や他の実践者にとって有益なものとするのが目標です。

○教材について

ESD 教材として、SDGs への貢献について

○指導方法について

特に学習前後の児童の変容を比較し、その要因について考察する。

- ・考察だけで、A4 で 1 ページ以上は必要

